

政策番号	3	政策分野	青少年の成長と参加
基本方針	青少年が社会を構成する担い手として、みずから考え、行動する大人へと成長、自立することを支援するため、多様な体験、社会参加の機会を提供し、自主的な活動を促進するとともに、社会全体で青少年の育成を支援する体制づくりを推進する。		

担当局	子ども若者はぐくみ局	共管局	
-----	------------	-----	--

政策に関係する 主な分野別計画等	はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプランー第3次京都市青少年育成計画ー
---------------------	---------------------------------------

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	28 年度	29 年度	30年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	青少年活動センターで活動するボランティア数(人)	814	970	d	e	757	797	925	86.2%	d
2	青少年(13歳～30歳)が参画している附属機関等の割合(%)	10.5	20.0	b	a	16.9	21.1	16.1	131.1%	a
3	自立に向け改善した青少年の割合(%)	58.0	70.0	b	c	40.0	56.0	70.0	80.0%	a
				c	c					b

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	28年度	29年度	30年度
0301	青少年の自主的な活動の促進(3指標)	a	a	a
0302	課題に直面する青少年の総合的支援の推進(2指標)	b	d	d
0303	青少年の成長を支援する環境づくり(2指標)	d	b	b
(3施策平均)		b	b	b

政策の客観指標総合評価	28年度	29年度	30年度
(政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	c	c	b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		28年度	29年度	30年度
1	青少年が社会体験を通して「生きる力」を伸ばせている。	c	c	c
2	青少年が自分の生き方や将来像を思い描けている。	c	c	c
3	青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。	d	c	c
4	青少年がニート(仕事も家事も通学もしていない15歳から概ね34歳までのひと)、不登校などの課題に直面したときに信頼して相談できるところがあり、支援がされている。	d	d	d
5	青少年の成長を支援する社会環境と、青少年を受け入れる居場所がある。	c	c	c
政策の市民生活実感調査総合評価		c	c	c

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

28年度		29年度		30年度	
順位	%	順位	%	順位	%
12	82.1%	11	83.8%	9	87.8%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている		
【客観指標総合評価】 ☑ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 □ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		29年度	C
【市民生活実感調査総合評価】 □ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☑ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・青少年活動センターなどを中心に青少年の自立に関する取組を推進しているが、子どもの貧困やインターネット・スマートフォン依存、薬物乱用の問題も深刻化するなど、青少年の生きづらさにつながる事象が報道等で取り上げられ、社会的な懸念が高まっているためと考える。			
【総括】 ・「自立に向け改善した青少年の割合」は、相談者の個別の状況によって、大きく変動するものであり、次年度の状況を引き続き把握していきたい。 ・また「青少年活動センターで活動するボランティア数」については、次年度に向けて、青少年活動センターと課題を抽出、検討していくことで達成度の改善へつなげていきたい。 ・「青少年(13歳～30歳)が参画している附属機関等の割合」は、各機関への周知等により、目標値である20%を達成した。		28年度	C

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		28	29	30
0301	青少年の自主的な活動の促進	B	B	B
0302	課題に直面する青少年の総合的支援の推進	C	D	D
0303	青少年の成長を支援する環境づくり	D	B	B

<今後の方向性>

①青少年の自主的な活動の促進

・青少年が「生きる力」を身につけ、自らの生き方・将来像を設計できるよう、青少年の成長に欠かせない多様な体験の機会の提供や市政への参加をはじめとした社会参加の促進など、青少年の自主的な活動を促進するとともに、その力を社会の幅広い分野で活用していく。

②課題に直面する青少年の総合的支援の推進

・課題に直面する青少年を支援するため、子ども・若者の社会的自立に資する団体に対する支援など、関係機関・支援団体等と連携し、制度や窓口の周知・啓発を行うとともに、ピアサポーター（ひきこもり経験者など、より支援対象者に身近な者）養成・派遣事業をはじめとした支援事業を実施するなど、「子ども・若者育成支援推進法」に基づいた取組を進める。
 ・各区役所・支所の保健福祉センターを中心に、これまで以上にひきこもり支援等に取り組む関係機関の緊密な連携を図っていく。

③青少年の成長を支援する環境づくり

・青少年が良き市民として社会参画していけるよう、青少年活動センターを拠点とした活動の場づくりや、人的支援とネットワークづくりを推進する。
 ・平成29年4月から、子ども若者はぐくみ局において、妊娠・出産から若者まで切れ目のない支援を行っている。青少年の成長を支援する環境づくりにおいても、子ども施策と「連携」し、取組を推進していく。

政策名	3	青少年の成長と参加				
-----	---	-----------	--	--	--	--

指標名	青少年活動センターで活動するボランティア数（人）					
-----	--------------------------	--	--	--	--	--

担当部室	子ども若者未来部	連絡先	748-0016		
------	----------	-----	----------	--	--

1 指標の説明

青少年活動センターで活動するボランティアの数

2 指標の意味

事業の企画、運営等に参画する青少年の状況（社会参加活動）を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
	814	970	平成15年度から平成20年度現況値（788人）までの5年間の増加数（182人）を、平成20年度から平成32年度までの増加数として当てはめた数値		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度
数値	757	797	40人増	925	平成32年度の目標値から各年度の目標値を等差的に算出（毎年度約15人増）	86.2%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上100%未満
c：90%以上95%未満
d：85%以上90%未満
e：85%未満

6 基準説明

平成32年度の目標値の達成には相当の努力を要するものの、年次ごとの目標値を上回ることは不可能でないため、達成度100%以上をa、以下5%刻みで按分した。

7 評価結果

28	29	30
d	e	d

指標名	青少年（13歳～30歳）が参画している附属機関等の割合（％）					
-----	--------------------------------	--	--	--	--	--

担当部室	子ども若者未来部	連絡先	748-0016		
------	----------	-----	----------	--	--

1 指標の説明

市の全ての附属機関等のうち、青少年（13歳～30歳）が1人以上参加している附属機関等の割合

2 指標の意味

社会の幅広い分野において、意思決定の過程に積極的に青少年の力が生かされていることを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
	10.5	20.0	平成21年度の実績が17%であり専門性、経験が求められる附属機関等委員の性格から、平成32年度までに20%を目指す。（京プラン実施計画第2ステージ）		

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度
数値	16.9	21.1	4.2%増	16.1	平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定	131.1%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

当指標については、設置される附属機関等の属性や内容による部分が大きく、かつ附属機関等の委員には専門性、経験が求められるため、最終目標を20%とし、達成度を20%ずつ均等に区分することで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
b	a	a

政策名	3	青少年の成長と参加			
指標名	自立に向け改善した青少年の割合（％）				
担当部室	子ども若者未来部	連絡先	748-0016		
1 指標の説明					
子ども・若者指定支援機関の支援コーディネーターが、関係機関と連携し課題に直面する青少年を支援した結果、行動等の改善が見られるなど、社会的自立に向け改善した支援対象者の割合					
2 指標の意味		3 算出方法・出典等			
社会生活を円滑に営むうえでの困難を有する青少年が、支援を受けた結果、生活における満足感や幸福感を高めていることを示す指標		出典：事業担当課調べ			
4 数値					
10年後（平成32年度）の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		
	58	70	これまでの実績値の最高値（平成25年度）		
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値	
	28年度	29年度		数値	根拠
数値	40.0	56.0	16ポイント増	70.0	これまでの実績値の最高値（平成25年度）
	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値				根拠	
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果	
最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上～100%未満 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		当指標は、相談者の個別の状況により変動を受けることから、80%以上をa評価、以下20%ごとに区分することで基準を設定した。		28	29
				b	c
					30
				a	